

2011 年 5 月 28 日

太秦・嵯峨野地域の遺跡 4 —大寺の時代 寺院建立—

(財)京都市埋蔵文化財研究所 上村 和直

1. はじめに

1) 研究と調査の動向

⇒文献史料の研究

- ・北野白梅町で寺跡(北野廃寺)を発見するまで。
- ・北野白梅町寺跡の発掘調査が始まる。
- ・廣隆寺の発掘調査が始まる。

2) 問題の所在

○建立時期

- ・推古 11 年、推古 30 年、天智 9 年

○移建説と非移建説

- ・北野→太秦、平野神社付近→太秦
- ・北野と太秦所在の寺院は別寺院

○寺院の名称

- ・蜂岡寺・葛野秦寺・秦公寺・太秦寺・廣隆寺・

2. 廣隆寺と北野廃寺の検討

1) 廣隆寺について

○伽藍配置

○出土した軒瓦

- ・飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代、平安時代

2) 北野廃寺について

○伽藍配置

○出土した軒瓦

- ・飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代、平安時代

3. 廣隆寺と北野廃寺の造営過程

○各寺院の創建時期

⇒両寺院の創建期の名称

○奈良時代以前の様相

○平安時代以後の様相

4. まとめ

1) 山背における初期寺院

○秦氏の造寺活動

○山背の寺院と中央豪族

- ・北野廃寺、廣隆寺、高麗寺、鞆岡廃寺

2) 畿内と各地域の初期寺院

○畿内における造寺活動

○各地域への造寺活動の波及

⇒・『日本書紀』推古 32 年(624)の条「是の時に當りて、寺四十六所、僧八百十六人、尼五百六十九人、併て一千三百八十五人有り。」

- ・『日本書紀』天武 9 年(680)の条「京の内の二十四寺に施りたまうこと、」

- ・『扶桑略記』持統 6 年(692)の条「天下の諸寺を計しむ。凡そ五百四十五寺」

主要参考文献

網 伸也 1995 「廣隆寺創建問題に関する考古学的私見」『古代探叢』IV、早稲田大学出版部

石田茂作 1936 「廣隆寺」『飛鳥時代寺院址の研究』第一書房

林 南 壽 2003 『廣隆寺史の研究』中央公論美術出版

上村和直 1995 「廣隆寺—移建か山背最古の寺—」『シンポジウム古代寺院の移建と再建を考える』
帝塚山考古学研究所

大脇 潔 1989 「七堂伽藍の建設」『古代史復元 8 古代の宮殿と寺院』講談社

久世康博 1992 「山城国北野廃寺の寺域について」『考古学論集』第四集、考古学を学ぶ会

鈴木久男 1987 「北野廃寺瓦窯について」『歴史考古学を考える—古代瓦の生産と流通—』帝塚山考古学研究所

田中重久 1944「廣隆寺創立の研究」『聖徳太子御聖蹟の研究』全国書房

浪貝 毅 1977「北野廃寺跡と広隆寺旧境内」『仏教芸術』116号、毎日新聞社

藤沢一夫 1938「山背北野廃寺」『考古学』9-2、東京考古学会

堀 大輔 2010『飛鳥白鳳の薨～京都市の古代寺院～』京都市文化財ブックス第24集、京都市文化観光局文化財保護課

1. 廣隆寺・北野廃寺関連主要史料

①『日本書紀』推古天皇11年(603)条

「十一月己亥朔、皇太子謂諸大夫曰、我有尊佛像。誰得是像以恭拜。時秦造河勝進曰、臣拜之。便受佛像。因以造蜂岡寺。」

②『日本書紀』推古天皇24年(616)条

「秋七月、新羅遣奈末竹世士、貢佛像。」

③『日本書紀』推古天皇31年(623)条

「秋七月、新羅遣大使奈末智洗爾、任那遣達率奈末智、並來朝。仍貢佛像一具及金塔并舍利。且大觀頂幡一具、小幡十二条。即佛像居於葛野秦寺。以餘舍利金塔觀頂幡等。皆納于四天王寺。」

④『七代記』〔宝龜2年(771)作成〕

「上宮太子造立合八所(中略)廣隆寺時俗號為蜂岡寺。」

⑤『廣隆寺縁起』〔『朝野群載』卷第2「文筆中」所載〕〔承和3年(836)作成〕

〔割注〕「秦公寺一名蜂岡寺」〔謹檢日本書紀云。推古天皇十一年。冬十一月己亥朔。皇太子上宮王謂諸大夫曰。我有尊佛像。誰得此像、將以恭拜秦造河勝進曰。臣拜之。便受佛像。因以造蜂岡寺者。謹檢案内。十一年冬。受佛像。小墾田宮御宇推古天皇即位壬午之歲。奉為聖徳太子。大花上秦造河勝所建立廣隆寺者。但本旧寺家地。九条河原里一坪二坪十坪十一坪十三坪十四坪廿三坪廿四坪廿六坪卅四坪。同条荒見社里十坪十一坪十二坪十四坪十五坪合拾肆町也。而彼地頗狹隘也。仍遷□□□五条荒蒔里八坪九坪十坪十五坪十六坪十七坪。并六ヶ坪之内。即施入陸地肆拾肆町肆段壹珀玖拾貳步也。又去延曆年中。別当法師秦鳳。竊取流記資財帳等逃亡。又去弘仁九年。逢非常之火災。堂塔歩廊。縁起雜公文等燒亡。然則此寺縁起資財等共燒亡。或散失。(後略)〕

⑥『廣隆寺資材交替実録帳』〔仁和2年(886)作成〕

「右寺縁起。推古天皇治天下卅穢次壬午大花上秦造河勝奉為上宮太子所建立也。彼願文乃至財帳等。弘仁九年逢火災。皆燒亡。」

⑦『上宮聖徳法王帝説』〔奈良時代初期作成〕

「太子起七寺。法隆寺、四天王寺、中宮寺、橘寺、蜂岡寺、池後寺、葛木寺。」

〔割注〕「並彼宮賜河勝秦公。」

⑧『上宮聖徳太子伝補闕記』〔建長2年(1250)作成〕

「丙子年(推古天皇二十四年)五月三日。(中略)太子巡国至干山代楓村。(中略)即於蜂岡南下立宮。秦川勝率己親族祠奉不怠。太子大喜。即小徳叙。遂以宮預之。又賜新羅国所獻佛像。故以宮為寺。」

「斑鳩寺被災之後。衆人不得定寺地。故百濟入師率衆人令造蜂岡寺。」

⑨『聖徳太子伝暦』

「廿七年己卯春正月。太子奉勅命駕。巡檢畿内諸国臣連国造伴造所建寺地。無他者給地。无木者給木。無田者給田。無壟者給園。經廿箇日。終至蜂岡。建塔心柱。定常住僧一十口。」

2. 北野廃寺関連主要史料

①『日本靈異記』下巻 第35話

「(桓武)天皇信悲、以延曆十五年三月朔七日、(中略)於平城宮野寺備大法會(下略)」

②『日本後紀』延曆15年(796)11月辛丑条

「始用新錢。(中略)亦施七大寺及野寺。」

③『政事要略』卷70 弘仁5年(814)10月条

「可禁制宮城以北山野事。」

四至「西限野寺東、南限宮城以北、」

④『伊呂波字類抄』

「常住寺葉師佛、件寺桓武天皇遷都之時、南京令移渡此京云々本御持佛也。」

⑤『諸寺略記』卷第769〔弘安2年(1279)1月23日云々奥書〕

「一野寺者。本名常住寺。桓武天皇御宇。延曆五年移建常住寺野寺也。遷都之時。自南京移渡於此京。帝御本尊也。」

表1 廣隆寺・北野廃寺研究・調査略年表

年代	主要論文（移建説）	主要論文（非移建説）	北野廃寺主要調査	広隆寺主要調査
1900	明治 平子鐸嶺1907「大秦廣隆寺の草創及其旧地について」			
1910	喜田貞吉1915「山城北部の條里を調査して大秦廣隆寺の旧地に及ぶ」			
	梅原末治1919「廣隆寺礎石及古瓦」			
1920	大正 梅原末治1923「大秦廣隆寺」	橋川正1923「大秦廣隆寺史」		
1930	川井銀之助1933「常住寺一名野寺址功」			
	昭和 小酒井儀三1933「廣隆寺の創建と経営」			
1940	石田茂作1936『飛鳥時代寺院址の研究』	藤沢一夫1938「山城北野廃寺」	1936北野白梅町で寺跡発見・府史蹟調査会調査	
		井本正三郎1940「山城北野廃寺南遺跡の研究」		
		田中重久1944「廣隆寺創立の研究」		
1950	毛利久1948「廣隆寺本尊と移建の問題」			
	向井芳彦1953「廣隆寺草創考」		1958京大考研調査	
1960			1965府調査(瓦積基壇)	
	藪田嘉一郎1966「野寺考」			
1970				1970平博調査(南北築地)
			1974・75六勝研調査(石列・溝・建物)	
			1977 1次調査(溝)・2次調査(建物)	1977市調査(基壇地業)・市調査(経塚)
			1978 3次(建物・溝)	
			1979 6次調査(建物・溝)・7次調査(瓦窯・建物・溝)	1979市調査(建物・縦穴住居)
1980	井上満朗1980「山背斑鳩と秦氏」			1981・82府調査(土壘・鑄造遺構)
		稲垣晋也1985「聖徳太子建立7箇寺院の創建と成立に関する考古学的考察」	1983 9次調査(南北・溝)	
			1985 10次調査(溝・建物)	
			1986 11次調査(流路)	
			1987 12次調査(築地・溝)	
			1990 14次調査(建物)	1991市調査(溝)
1990		岸本直文1992「7世紀北山背岩倉の瓦生産」		1992市調査
		網伸也1995「廣隆寺創建問題に関する考古学的私見」		
		林南壽2003『廣隆寺史の研究』		

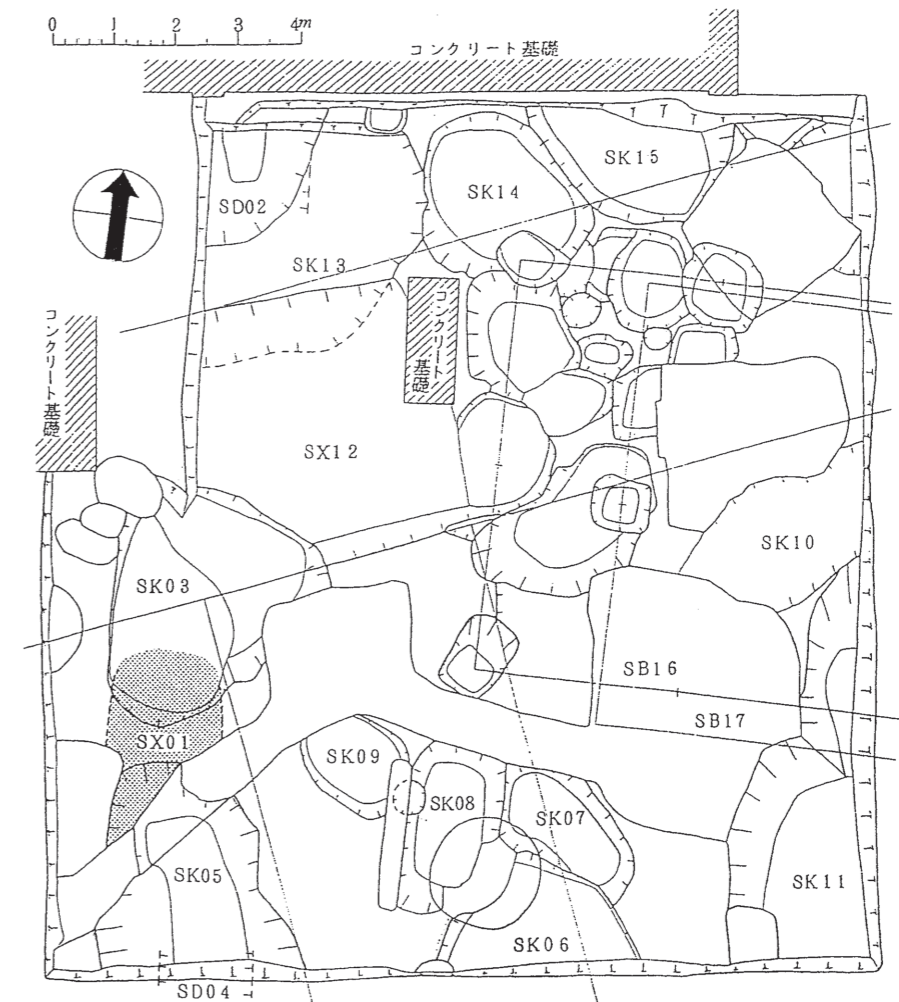


図1 廣隆寺77年調査遺構図

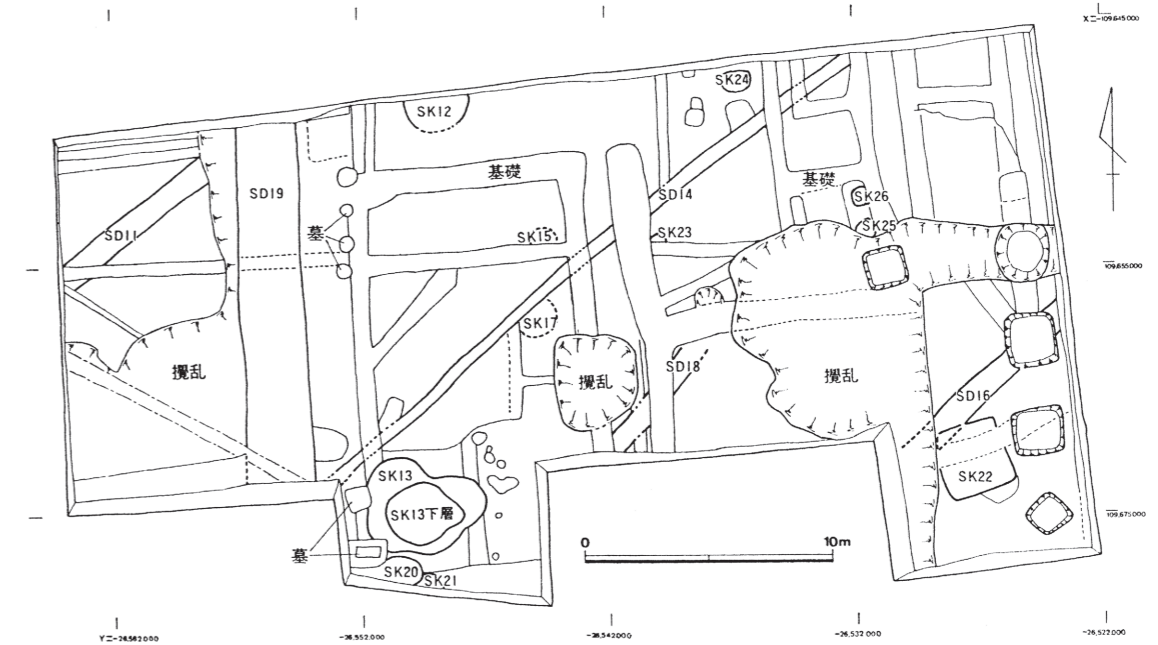


図2 廣隆寺82年調査遺構図

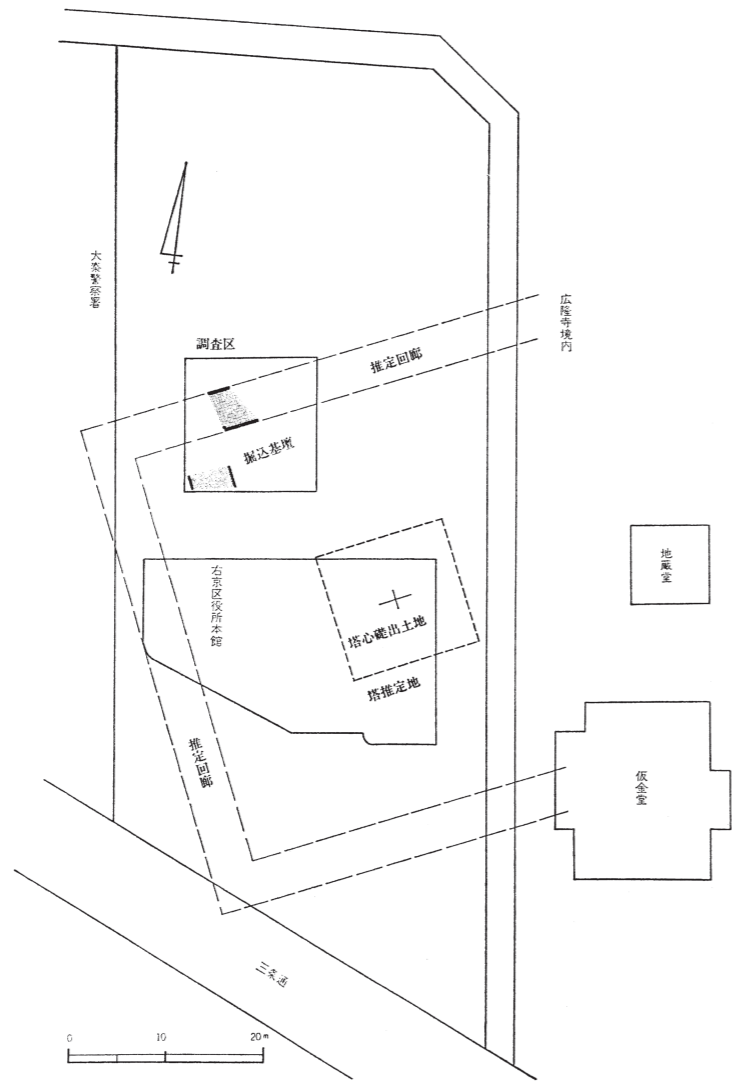


図3 廣隆寺 77 年調査遺構配置図〔浪貝 77 を一部改編〕

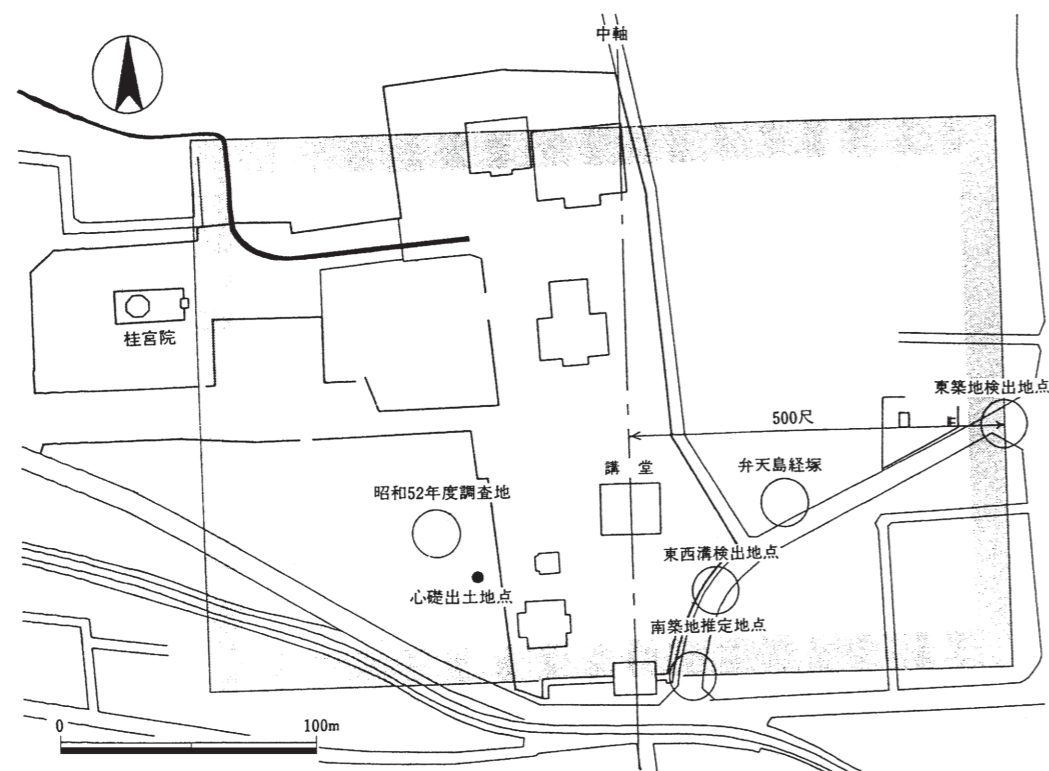


図4 廣隆寺寺域推定復元図〔網 95 を一部改編〕

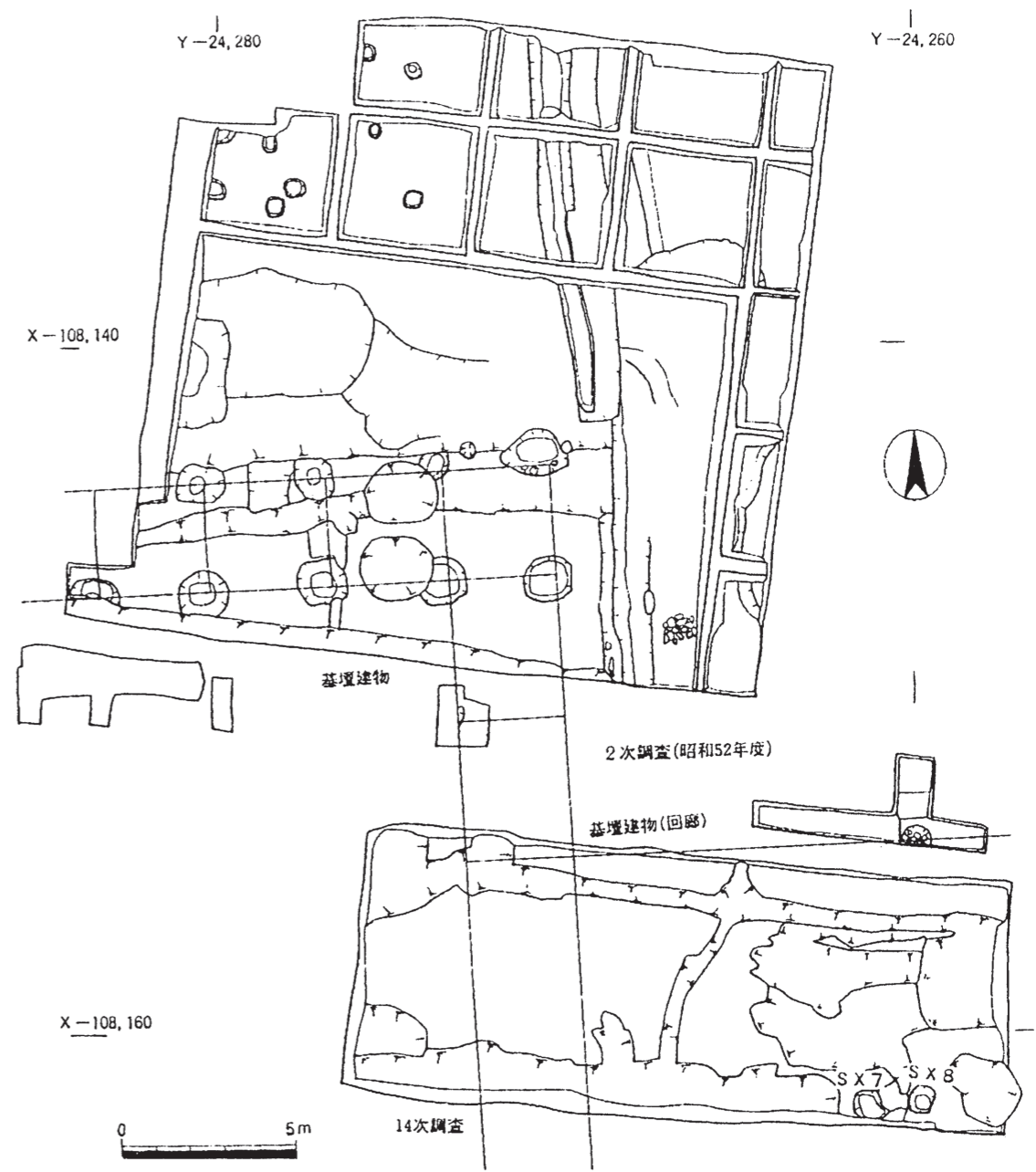


図5 北野廃寺 2・14次調査遺構図

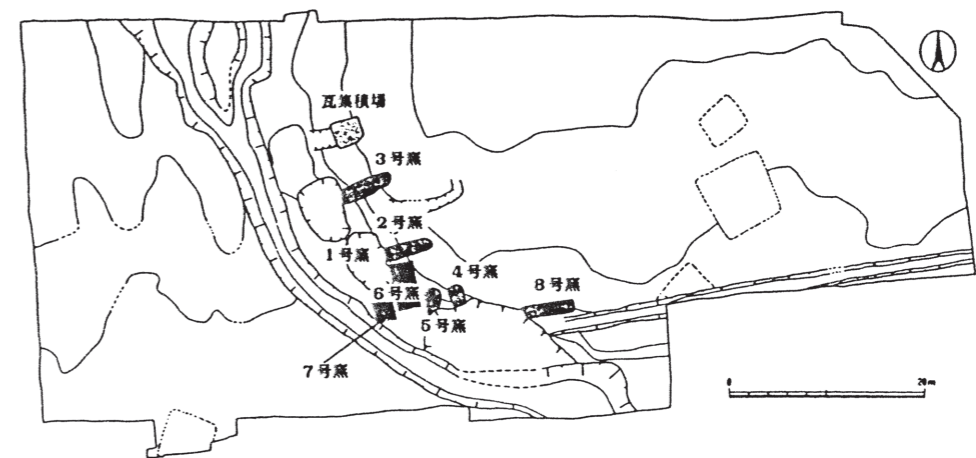


図6 北野廃寺 7次調査遺構図

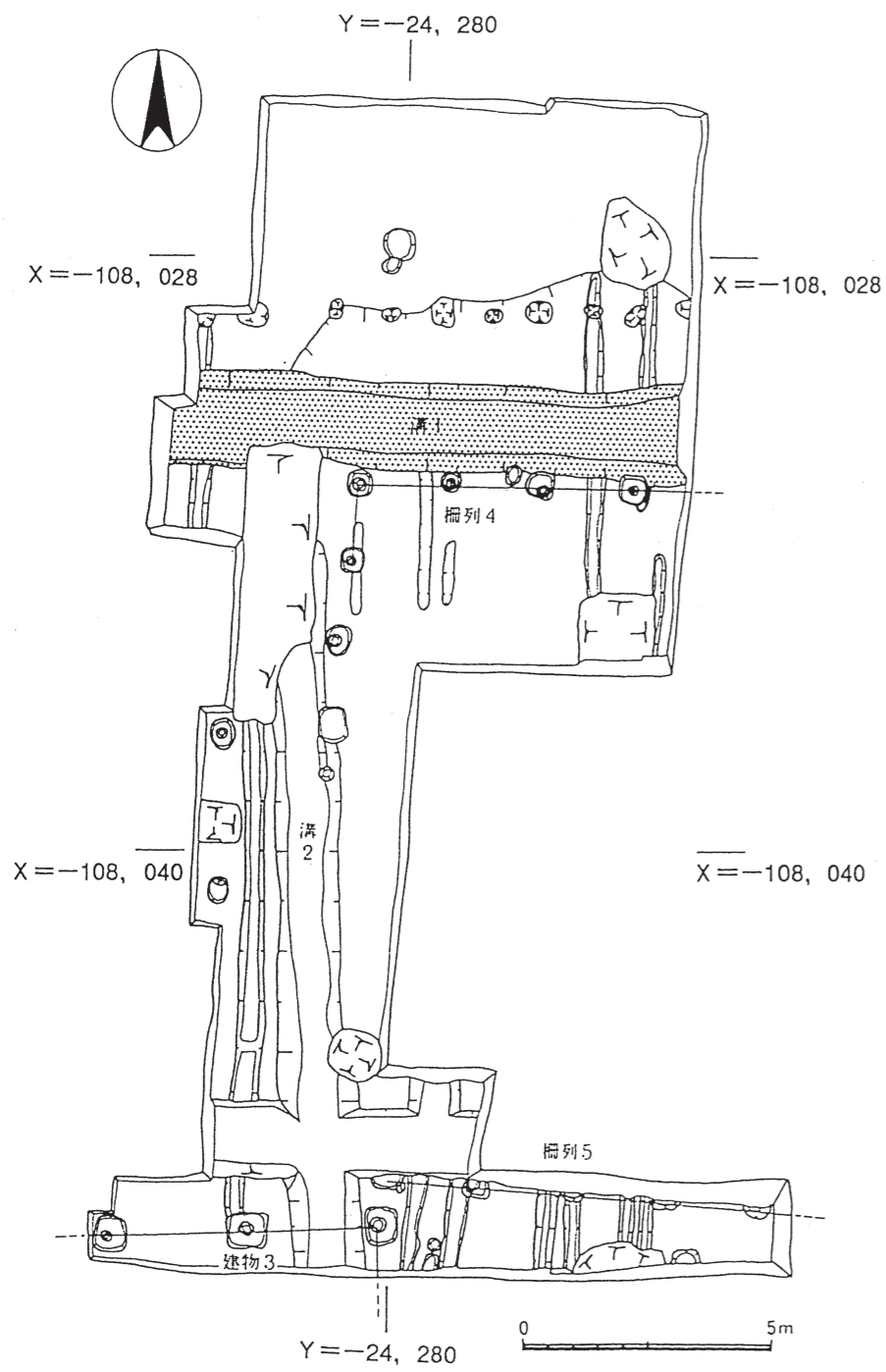


図7 北野廃寺 10次調査遺構図

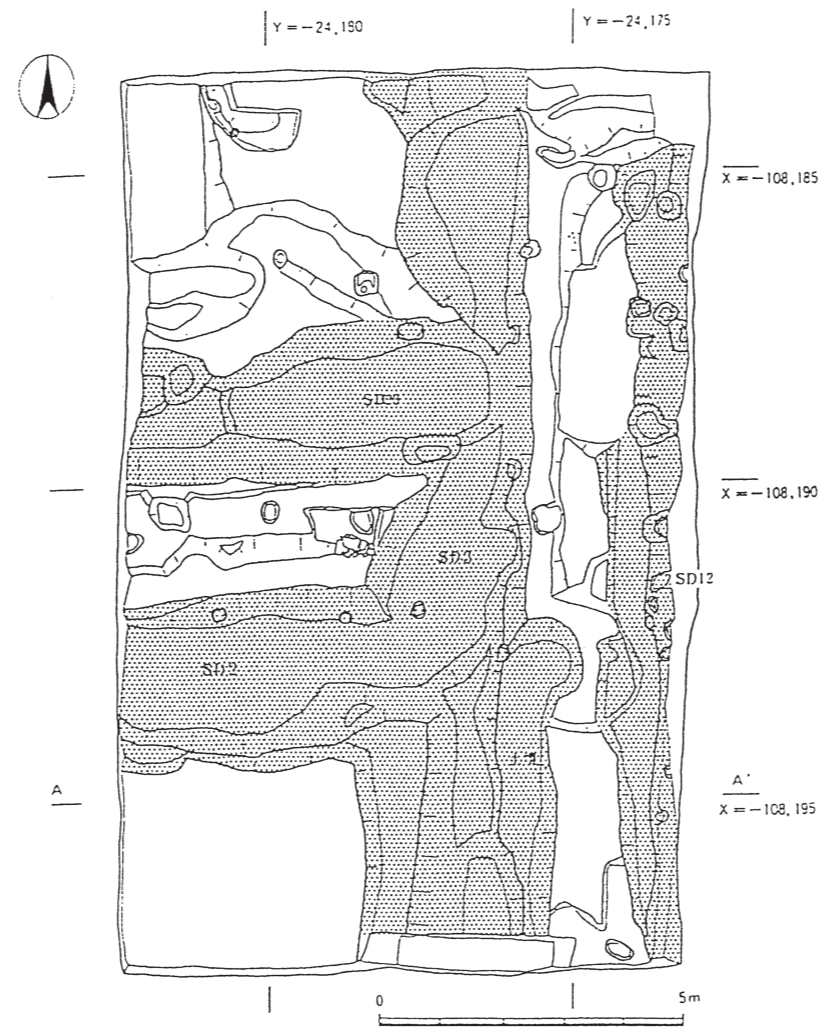


図8 北野廃寺 12次調査遺構図

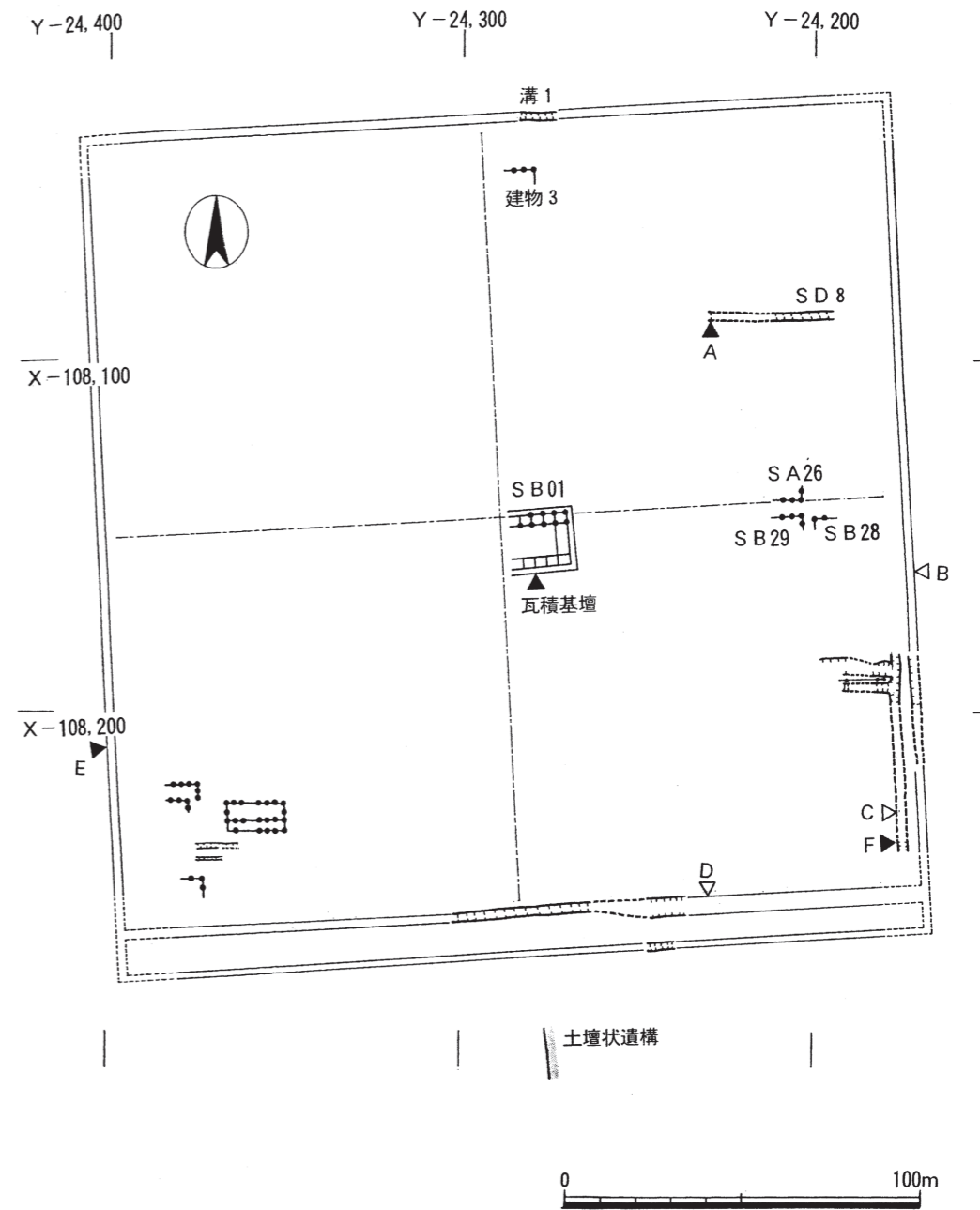


図9 北野廃寺寺域推定復元図〔久世 92 を一部改編〕

表2 廣隆寺出土主要軒瓦変遷表(1:8)〔網95を一部改編〕

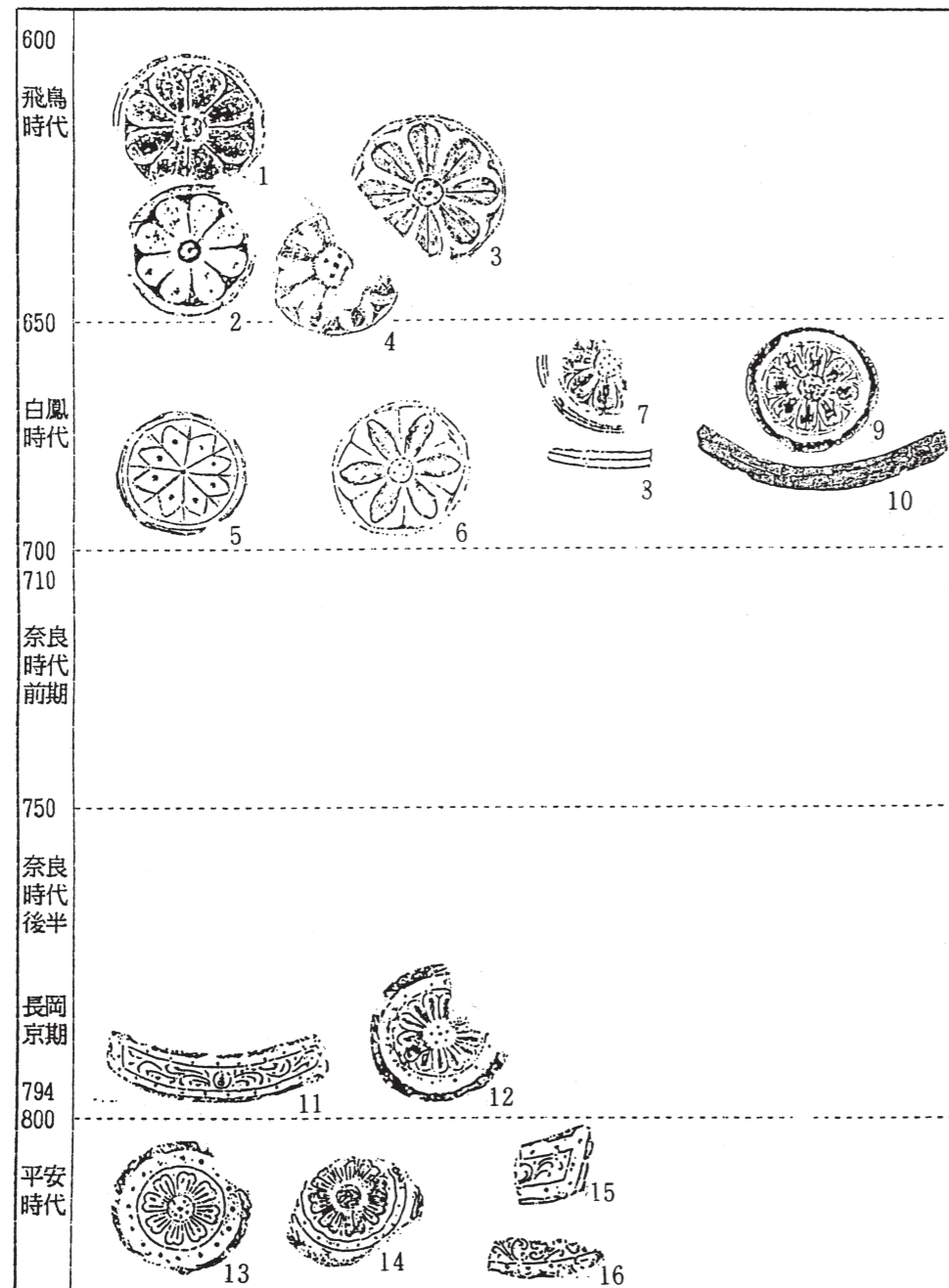


表3 北野廃寺出土主要軒瓦変遷表(1:8)〔鈴木87・網95を一部改編〕

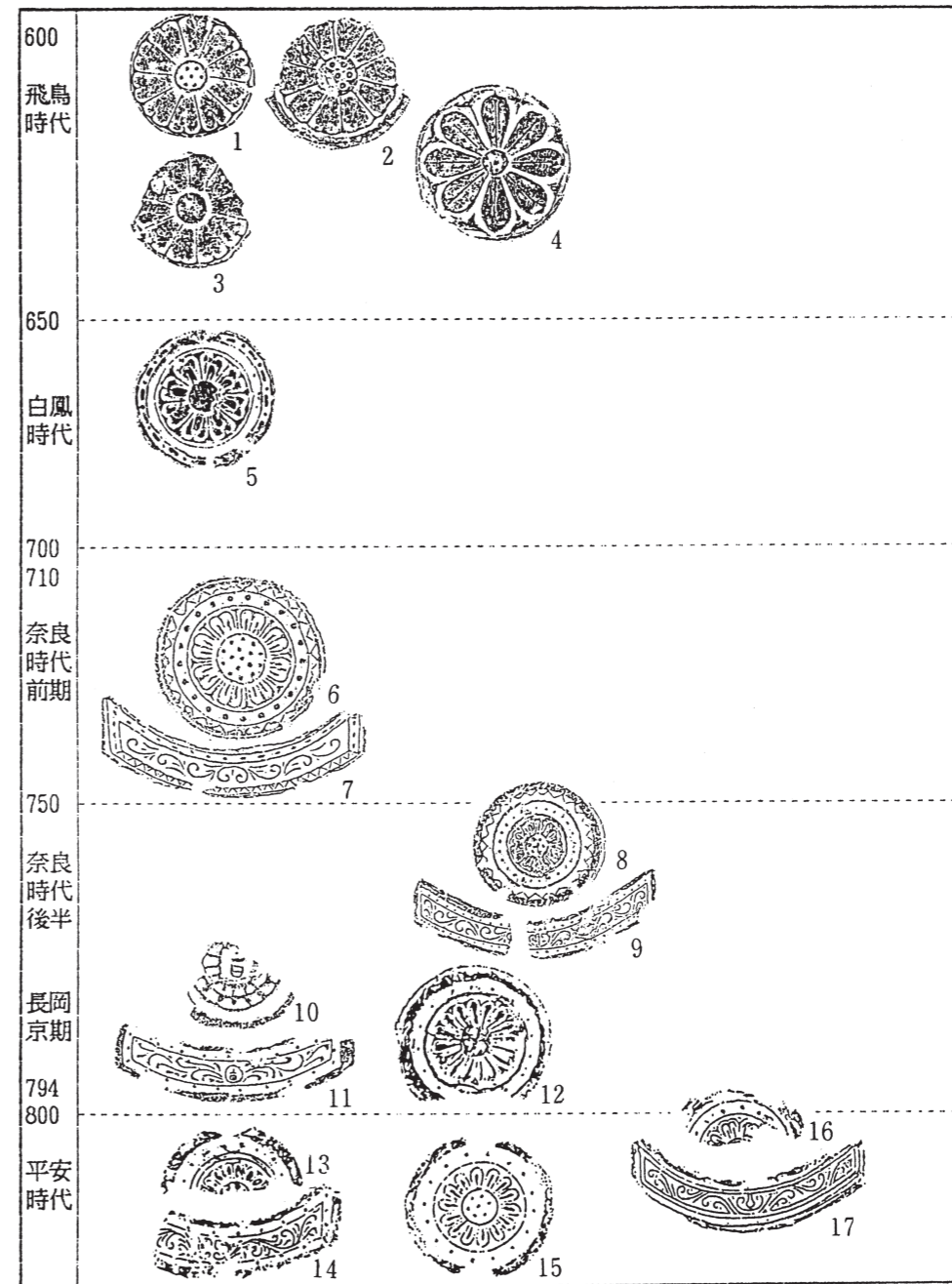


表4 廣隆寺・北野廃寺・北山背主要寺院変遷表

年代	天皇	主要事項・寺院	北野廃寺・廣隆寺関係史料	主要寺院の変遷					
				葛野郡	愛宕郡	紀伊郡	宇治郡	乙訓郡	
	推古	588飛鳥寺造営							
		593四天王寺造営							
600	舒明	601斑鳩宮造営	603蜂岡寺造営『書紀』						
		607法隆寺創建	616新羅仏像貢ぐ『書紀』						
		622太子逝去	622廣隆寺移建『縁起』	北野廃寺					鞆岡廃寺
			623葛野秦寺仏像安置『書紀』						
皇極	考徳	641山田寺起工							
		645大化の改新							
650	天智	この頃川原寺・小山廃寺造営	この頃蜂岡寺造営『太子伝補闕記』						
		670法隆寺被災		極原廃寺	北白川廃寺			乙訓寺	
		672壬申の乱							
		680薬師寺造営 694藤原宮遷都							
700	元正	710平城京遷都							
		741国分寺建立の詔			おおせんどう廃寺	大宅廃寺	法琳寺跡		宝菩提院
750	桓武	784長岡京遷都 794平安京遷都	796平城宮野寺『靈異記』・796野寺新銭施入『後紀』						
			「野寺」墨書土師器						
			818廣隆寺焼失『縁起・実録帳』 836秦公寺一名蜂岡寺『縁起』	野寺・常住寺					
			この頃廣隆寺復興						
850	文徳	858常住寺別院火災『文徳実録』							
		873廣隆寺資材帳成立 884常住寺焼亡『三代実録』 「秦立」墨書灰釉陶器							

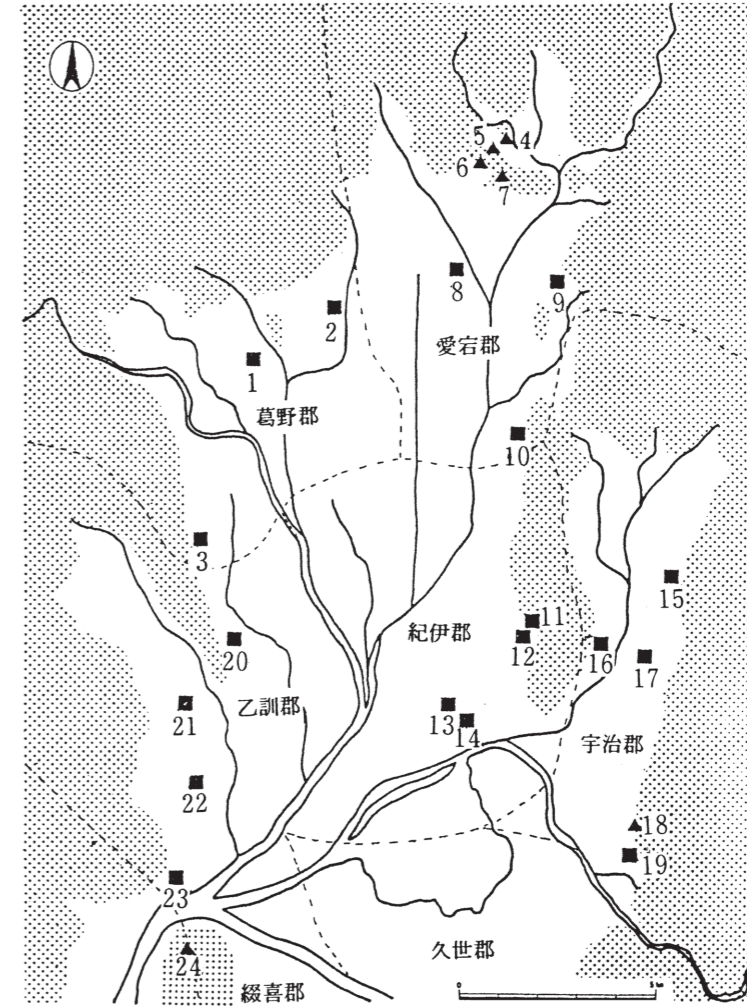


図10 北山背初期寺院分布図(1:12000)

- 1 廣隆寺 2 北野廃寺 3 極原廃寺 4 元稲荷窯 5 栗栖野窯
- 6 御用谷窯 7 木野墓窯 8 出雲寺跡 9 北白川廃寺 10 法観寺
- 11 がんぜんどう廃寺 12 おうせんどう廃寺 13 板橋廃寺
- 14 御香宮廃寺 15 大宅廃寺 16 法琳寺跡 17 醍醐廃寺
- 18 隼人上り窯 19 大鳳寺跡 20 宝菩提院廃寺 21 乙訓寺
- 22 鞆岡廃寺 23 山崎廃寺 24 平野山窯

